



美濃
舊衣

八丈綺談



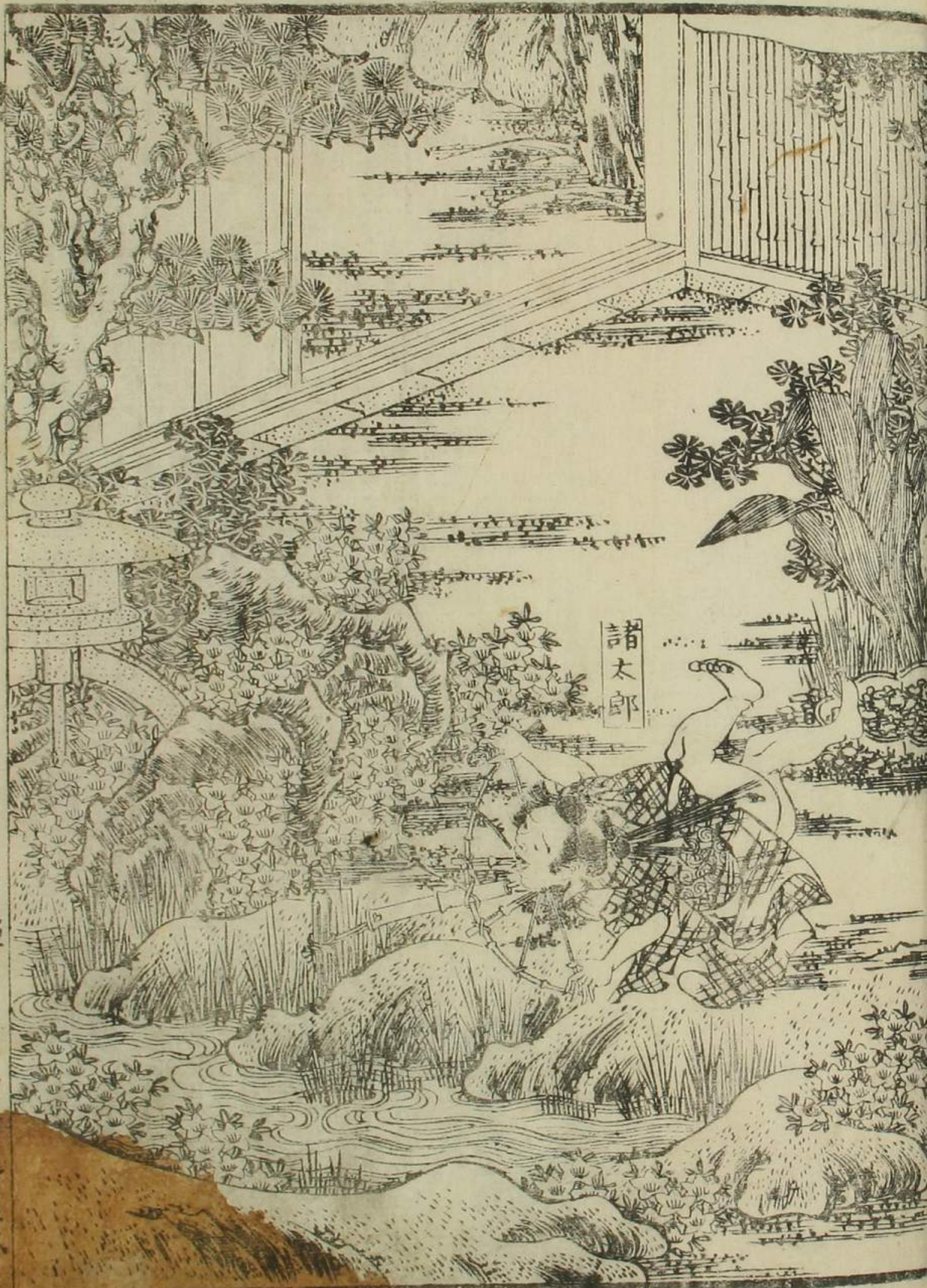
叁

特別
^13
3646
3



果敢く暮く。明日が天文十五年。春は夏長く。迎梅雨晴く。諸太郎が
種をとり。金魚を触り捉へてきたり。金魚はむらむら邦はは先朝後拍
原の久時。文龜二年壬戌の春正月。異國よりこゝに渡りて。左海乃
津に來船せり。このとれたる魚の多くを赤白黒の三種よく。更紗をひき
み。そのうちこゝに珍畜ふものあり。その種類も夥出きて銀魚あり。玳瑁魚
あり。こゝに今より文紗魚と又金魚はて尾の形。鯽魚に似たり。玳瑁魚といふ
所。現今の和金魚と又金鯉魚あり。矮魚あり。金鯉魚即ひとひに数魚ハ即
ららちやうみく。ららちやうみく。は虫名もみく。その色黄うる。玳瑁魚といふこと
らの稱呼ハ漢名あり。又鰻尾あり。凹尾あり。西端蒲葡一文字。八文字又十
文字。鰻尾。箭尾の種。ハ尾の形。殊にく。多珍なり。三岐四岐。箭尾。房尾
。鰻尾。射斗尾と名をとりく。又、は、え、い、の、後、の、み、ふ、く、を、い、く、と、い、く、金

魚の渡り。僅小四十餘年。殊に貴く。色も。諸太郎一
つ。びとを採りて。獲まくり。とく。呪ふ。く。愛し。溺る。や。諸平ハ
日來の谷は。他びら。通金魚。二尾と。講く。背門なる。庭。榎松。て。俄頃
こ。中。なる。生。淵。と。造。じ。餌。畜。水。曝。旦。夕。又。生。淵。の。蓋。の。用。盡。す。と。み。る。榎。松。ハ
仕。り。る。又。件。の。金。魚。矢。し。こ。ハ。諸。太。郎。ハ。只。眉。小。之。乃。つ。く。泣。ね。ひ。て。賺。き。と
吐。び。止。む。と。の。声。常。は。ゆ。く。諸。平。ハ。店。より。走。り。來。く。獐。の。執。と。ゆ。も
あ。へ。ど。榎。松。が。頂。上。纏。く。膝。の。や。と。り。引。よ。せ。つ。握。る。春。の。麻。も。な。ら。り。ふ。
數。回。打。懲。し。く。服。と。睜。し。声。を。と。り。立。ち。中。を。ま。白。徒。生。淵。乃。蓋。と。し。く
と。よ。と。豫。し。り。ひ。つ。る。系。主。命。殊。也。と。せ。む。足。ら。ぬ。心。の。き。ぶ。と。い。ふ。等
困。は。ま。く。こ。こ。社。殿。の。法。を。捨。て。て。こ。こ。か。り。は。金。魚。と。改。典。の。奴。金。と。い
觸。の。心。を。と。り。と。汝。竊。し。入。小。賣。く。罪。殊。觸。小。肩。と。る。わ。い。ら。ん。明。白。よ



諸太郎

五



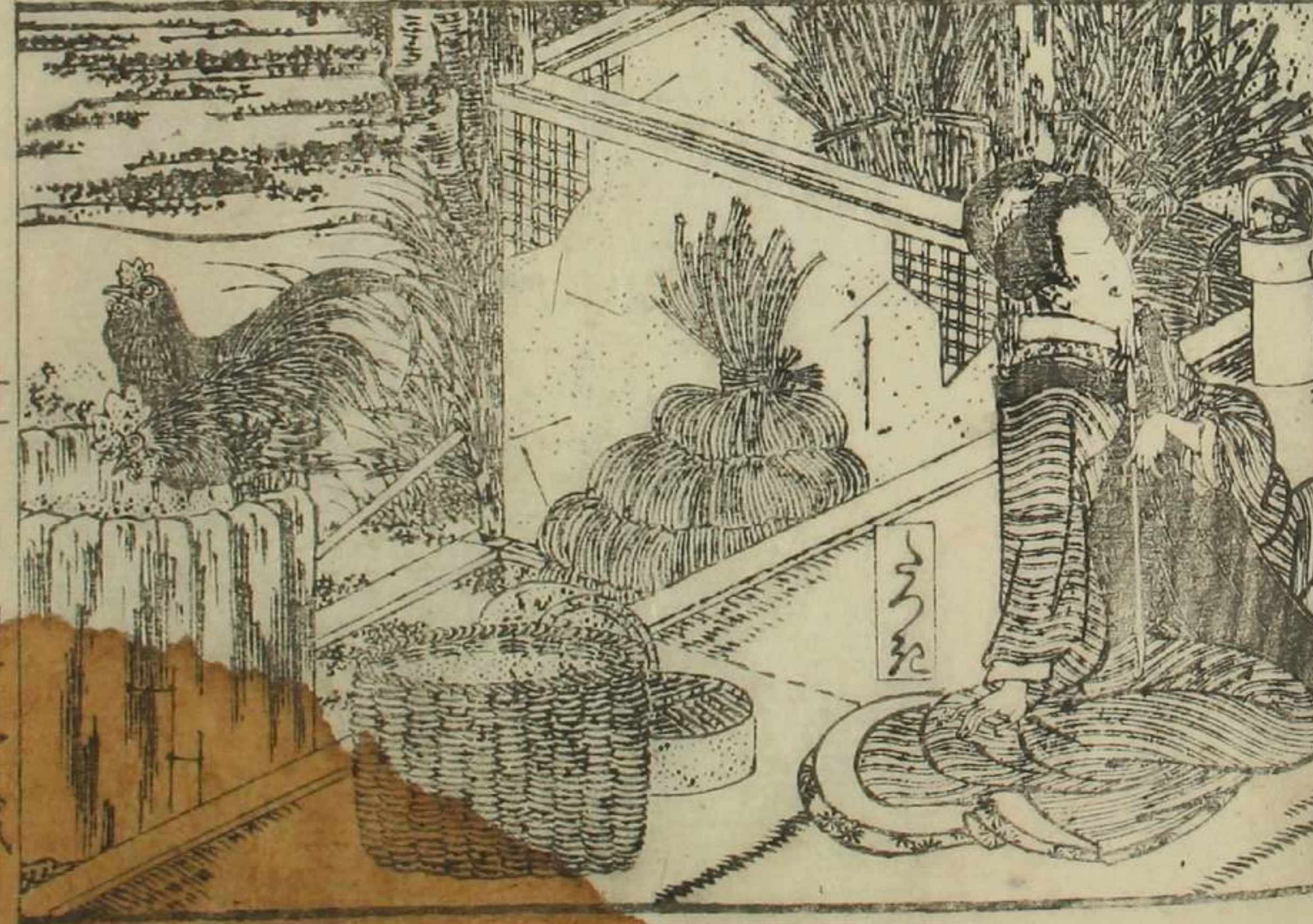
天
孝子
あつた
情
暗
警
心

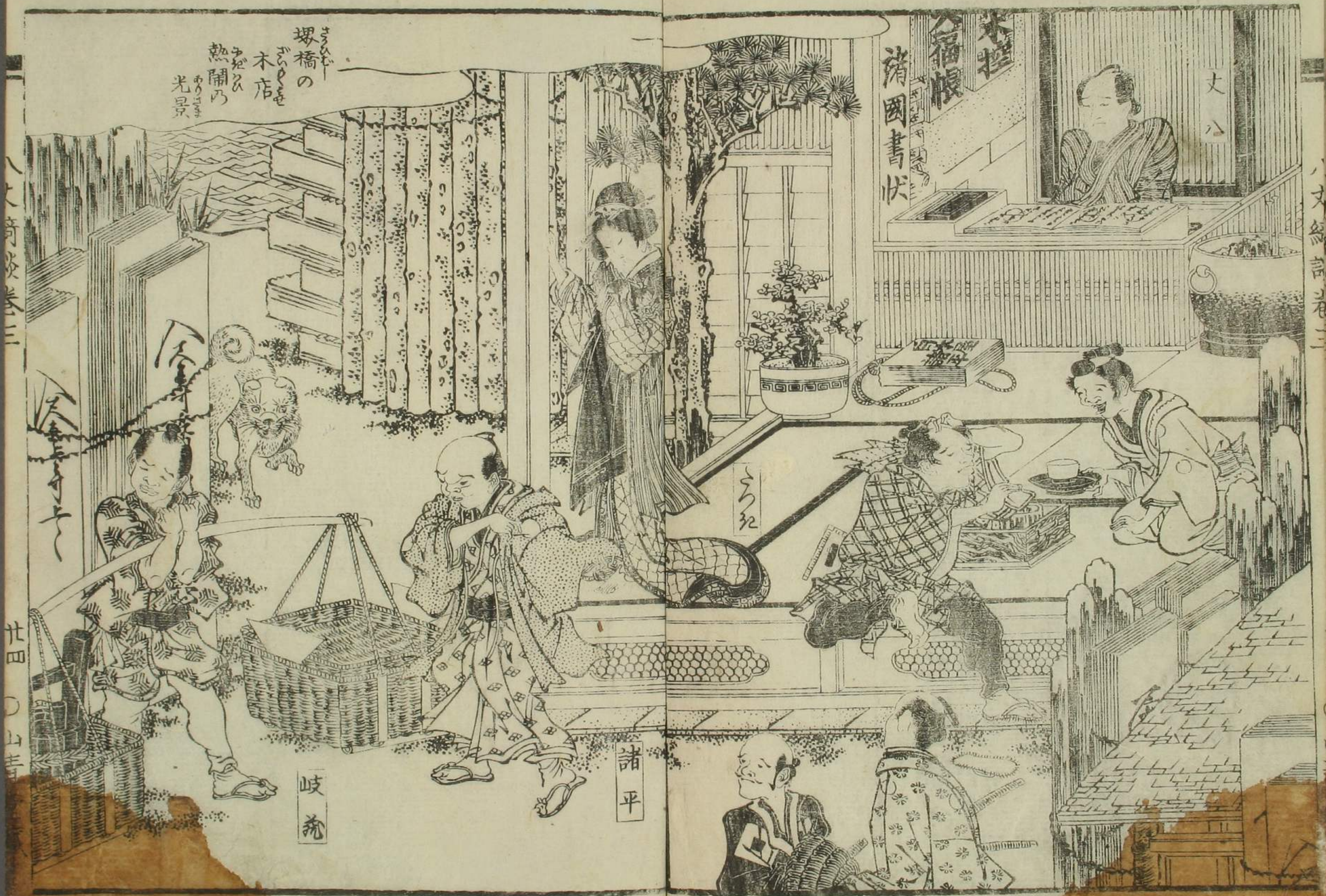
鏝松

文
新
言
卷
三

終くは土の下なる妻と子よ。かつらぬ
 錢と替へし。方便とめぐれ。便宜と
 ゆへ向ふ。又ある女児を返ささるるか
 還つてせん渠が十二分の標致にてより死
 女塔と撰るるが齋るるごとく。獲場
 とくま。お助ととり。復と計策とかる。
 とひ致若く。如貫囊と撈とせむ。ひつら
 裸松が一通の送書とのこと。夫院路成
 投て比。妻は母介と追ひもごめど。密書
 夫八と招して。彼送書成。見え。夫八の

またゆ。尾ひ紙うち。してんて冷笑ひ十三
 四年信か。親の安んぬ。同んぬ。信奴
 ころぐと。指茶。少。越んて。あひ。ころれ。
 今の世の地方。ころぐ。戦場。る。ぬ。里。由
 なく。園の消の固け。と。勿。地。途。又。抑。屈
 口。ころぐ。餓死。見え。の。必定。と。ころぐ。捨。て
 お。死。あ。んと。い。ふ。又。介。八。公。か。り。わ。て。い。ふ。押。さ
 氣。ころぐ。は。是。れ。も。夫。八。と。宿。所。又。固。め。て
 薩。摩。と。の。事。と。口。り。抑。介。が。此。年。未
 貯。祿。成。り。た。家。族。ち。り。く。安。く。ひ。よ。日。致
 送。る。何。致。生。活。さ。さ。る。年。ら。ん。と。ころぐ。め。





坂橋の
木店
熱開の
光景

大八
諸國書状

八丈島書卷三

八丈島書卷三

廿四
山寺

岐流

諸平

三三

